

医学教育シリーズ

第2回近畿大学医学部ベトナム研修プログラムに参加して

加藤 正寛 松本 悠佑 渡部 亮太郎 倉田 奈央子

近畿大学医学部医学科5年生

1. はじめに

私たち4人は2019年3月18日から29日の2週間、ベトナムのホーチミン市における2か所の病院 (Hospital for Tropical Disease, Children Hospital 1) で実習を行った。本プログラムは学生の間から海外の医療現場に触れることにより、国際色豊かな医師を育成することを目的に実施されている近畿大学医学部海外派遣プログラムの一つとして昨年よりスタートした。本年は2回目の実施となり、より充実した実習内容となった。

2. 病院で学んだこと

私たちは2週間の実習のうち、1週目は Oxford University Clinical Research Unit (OUCRU) も併設されており、感染症を専門とする Hospital for Tropical Disease で実習を行い、2週目はベトナム南部最大規模の小児科病院である Children Hospital 1 にて実習を行った。いずれの病院においても、実習の集合時間は午前7時などと朝早く、午後4時までというのが基本的な実習スケジュールであった。初めての経験や貴重な体験を数多くさせて頂いた。以下、それぞれの病院で実習したことや学んだことを述べる。

2.1 Hospital for Tropical Disease

本病院では主にマラリア、デング熱・デング出血熱、破傷風、結核、HIV について学び、実習した。Nguyen Hoan Phu 先生によるマラリアの講義は、ベトナムでの疫学から治療までだけでなく、ベトナム戦争と抗マラリア薬の関係にまで及び、実習に同行してくれたベトナムの医学生にも貴重な講義となったようだった。また、Nguyen Ho Hong Hanh 先生指導の下、血液塗抹標本でのマラリアの鑑別も

行った (図1)。

デング熱・デング出血熱に関しては、Tran Bao Nhu 先生による重症デング出血熱患者の病棟で問診の同行をし、実臨床に基づく知識を教えて頂いた。後日、Huynh Trung Trieu 先生の指導の下、Child ICU においてデング出血熱の患者の聴診をさせて頂いた。

破傷風に関しては、Adult ICU の見学にて複数の患者を観察し、実際にスパズムや筋硬直を確認した。破傷風についても実臨床に基づく講義をして頂いた。後日、Huynh Trung Trieu 先生の指導の下、Child ICU において新生児破傷風のスパズムも確認した。

結核では、結核性髄膜炎や結核性脳炎の患者が多数入院しており、項部硬直等の髄膜刺激症状の身体診察をさせて頂いた。HIV に関しては、Hai Duong 先生指導の下、合併症としてのニューモシスチス肺炎や真菌感染症も実際に見学させて頂き、入院患者の経過説明や、ベトナム語に通訳して頂きながら患者と話をする機会を頂いた。他にも、Nguyen Ho Hong Hanh 先生のご指導の下で髄膜炎の新規転送患者のバイタルサインや身体診察を取らせて頂いた。

Hospital for Tropical Disease での実習の最終日、

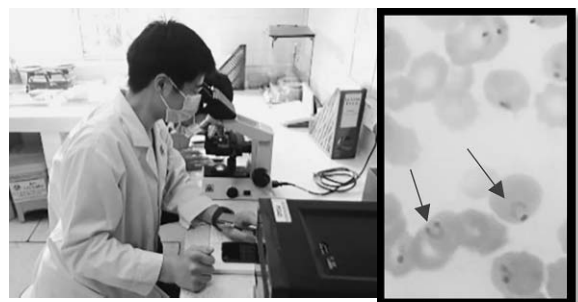


図1 マラリアの末梢血塗抹を観察する加藤



図2 集合写真：Hospital for Tropical Disease

先生方に集まって頂いた（図2）。そこで、私たちは学んだことを元に破傷風に関するプレゼンテーションを行った。

2.2 Children Hospital 1

本病院では、5つの診療科にて実習をさせて頂いた。小児おける呼吸器疾患へのアプローチの仕方やサラセミアの講義、予防接種や放射線科の見学、手足口病による髄膜炎の症例勉強会やPBL等にも参加した。Dept. of Respiratory Diseaseの実習では、Nguyen T Thu Suong先生の指導の下、重症な肺炎の患者はじめ多数の患者と接した。Fine cracklesやCoarse cracklesをはじめとする様々な呼吸音の聴診や乳幼児の呼吸数の測定等をした。

Emergency Departmentでは、溺水によるショック状態の患者さんや重症肺炎の患者に接し、身体診察をした。Dept. of NephrologyではIgA血管炎の患者の皮膚所見や、糸球体腎炎の患者の浮腫を確認するなどした。

Dept. of General Pediatricsでは、Nguyen Thi Kim Thoa先生の指導の下、脳性麻痺の患者にて折り畳みナイフ現象の確認、小児の発達評価の見学をし、扁桃炎による白苔、脾腫、湿疹、リンパ節腫脹等の身体所見を取った。

Dept. of Infectious Disease and Neurologyでは、Nguyen Hoang Thien Huong先生の指導の下、手足口病の患者の口腔内潰瘍や水疱所見の確認した。教授回診では、脊髄炎、百日咳、筋ジストロフィー、敗血症といった様々な患者をみた。

Nguyen Minh Tuan先生によるサラセミアの講義では、学生によるサラセミアについての説明の後、先生からの補足という形にて、疫学から治療まで解説があり、新鮮な講義形式であった。診断過程にてMentzer index等の複数のindexの解説、電気泳動法や遺伝子検査の解説に加え、コストについても触れ、ベトナムの医療経済事情も感じた。



図3 サラセミアの講義後、先生や学生らと共に



図4 Closing Ceremonyにて修了書を授与

Nguyen Hoang Thien Huong先生による症例検討会では、学生の担当患者について、学生自身がまとめたパワーポイントを元にアクティブラーニング形式にて理解を深めながら、学習した。問診や臨床所見における大切な点、鑑別疾患、診断の仕方を先生の実臨床における経験を享受しながら、能動的に学習した。

最後にClosing Ceremonyにて、病院長のNguyen Thanh Hung先生より修了書を頂き、感慨深い実習の終わりとなった（図4）。

3. 放課後と休日

留学中は学生による放課後や休日のフォローが手厚かった。放課後は夕食としてPhoやBun, Bahn Xeoなどのベトナム料理を楽しみ、サッカーをするなどして学生と交流を深めた。

土曜日はVietnam National University-Ho Chi Minh City (VNU-HCMC)の本校へ招待され、ワークショップに参加しながら、主に現地医学部の1-3年生と交流を深めた。ワークショップは4チームに分かれて行われた。テーマはそれぞれ、①カリキュラムの違い、②大学（勉強）と私生活（放課後、休



図5 ワークショップにて発表する松本



図6 メコンデルタ観光

日)の両立の仕方,③医学生長の長所・短所,④文化・言語の壁の乗り越え方であった。私たちは各チームにて異なるテーマについて議論し、最後にチームごとに私たちとベトナム人学生が発表し、考えを共有した(図5)。私たちが、近畿大学や日本の医学生の生活等について紹介をするプログラムもあり、たくさんのベトナムの学生が日本や弊学への留学プログラムへ興味を持ったと感じた。ベトナムの医学生の生活や考え方が垣間見え、楽しい交流の場となった。

日曜日はメコンデルタ観光をした(図6)。VNU-HCMC 医学部6年生の Kha To Dong 君を中心にサポートしてくれ、現地の歴史・食文化・生活などに触れられる大変有意義な時間となった。また、学生同士が学外で交流し、交友を深める貴重な機会となった。帰国前日も Kha To Dong 君が自宅にて、送別会を開いてくれた。また、帰国当日の夕食でも忙しい中たくさんの学生が集まってくれ、最後まで交流を楽しむことができた。

4. 総 括

2週間の間、多くの貴重な体験をすることができた。ベトナムの実習環境は日本と大きく異なり、学生自ら多数の患者を訪問し、問診や身体診察を実施することができ、英語の教科書を用いることが多い環境にあった。そのため、多くの学生の問診・身体

診察スキル、医学英語は非常にレベルの高いものであった。一方で、日本のように数名の学生に対し1名の教員が指導するような環境は整っておらず、教員からのフィードバックは得られにくいと感じた。しかし、学生同士で切磋琢磨しあう雰囲気が出来上がっており、多くの学生が自発的に学習していた。環境と結果には良い面と悪い面があると感じたが、ベトナムの医学生は良い面を有効的に利用し、学習や実習をしていると感じた。日本以外の医療現場を見て、国際的に活躍する医師になるためには、英語に普段から触れ、病棟の患者さんのもとへ足を運び、様々なことを自発的に吸収することが大切であると感じた。本プログラムを通じて、医師の原点の一つのようなものを見せて頂いたと感じた。そして、このような貴重な体験のできる本プログラムの魅力を発信していきたいと感じた。

研修先の病院の先生や VNU-HCMC の学生によるおもてなしを受け、とても友好的で充実したものであった。これは、過去2年間の VNU-HCMC の医学生の来日時における弊学の先生や学生のおもてなしによるものであると感じた。VNU-HCMC の医学生の来日時には私たちもおもてなしをし、友好的な関係を継続していきたい。

5. 謝 辞

今回の実習に至り、全面的に協力して頂いた医学部長・血液膠原病内科主任教授の松村到先生、形成外科主任教授の磯貝典孝先生、出発前から多大なサポートをして頂いた血液内科の Luis Espinoza 先生、安全衛生管理センターの池田行宏先生、消化器内科の依田広先生、学務課の室屋文英様、シミュレーションセンター看護長の山田明子様、Hospital for Tropical Disease にて対応して頂いた Nguyen Hoan Phu 先生、Nguyen Ho Hong Hanh 先生、Tran Bao Nhu 先生、Huyen Ho Hong Hanh 先生、Durong Hai 先生、Children Hospital 1 にて対応して頂いた病院長の Nguyen Thanh Hung 先生、Duong Ngoc Mai 先生、Nguyen T Thu Suong 先生、Ho Quang Minh 先生、Luong Thi My Tin 先生、Nguyen Hoang Thien Huong 先生、VNU-HCMC の International Relations Officer の Le Xuan Loc 様、VNU-HCMC の医学生でサポートしてくれた Kha To Dong 君、Pham Vinh Phu 君、Quynh Tran Thi Nhu さん、Thanm Nguyen Huu 君、Pham Anh 君、Hai Ngo 君、Thu Nguyen Tran Anh さん、Nguyen Bich Thu さん、Thao Thanh さん、はじめ関係者の皆様へ心から感謝を申し上げます。